

L03b 曆象年表の改訂

片山 真人、松田 浩、福島登志夫、渡部潤一（国立天文台）

国立天文台天文情報センター曆計算室は、国際的に採用されている基準曆に基づき、太陽・月・惑星の視位置をはじめ諸曆象事項を計算し、国立天文台の設置目的の一つである‘曆書’の編製として曆象年表を発行している。現在市販されている理科年表の曆部もこの曆象年表とほぼ同じ内容になっている。

国立天文台ではこの曆象年表の内容を拡充し、本格的な天体曆として刊行することを計画している。今回は計画の概要と具体例についていくつか紹介する。

1. 平成 21 年 (2009 年) 版 ~

- (a) 2006 年の第 26 回国際天文学連合総会で採択された新しい歳差理論の採用。
- (b) 版を A4 サイズとし、内容については大きく変更せず、表示桁数や日数を拡大する。

2. 平成 23 年 (2011 年) 版 ~

- (a) 項目を充実させる
- (b) 解説を充実させる